

# AUV官民PFの活動の今後の方向性

---

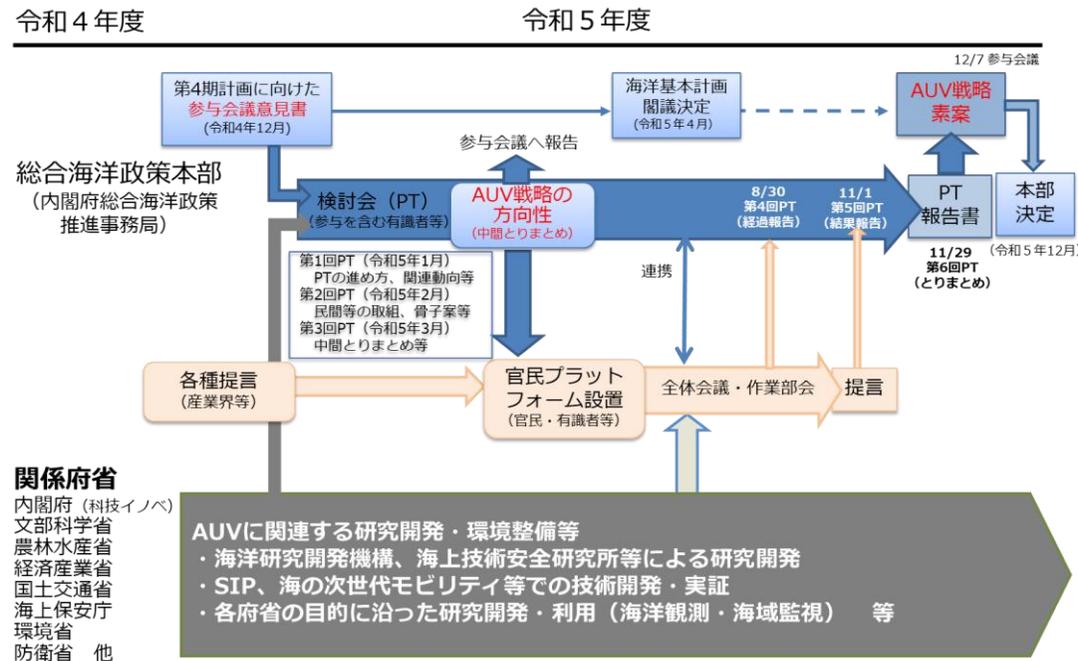
内閣府 総合海洋政策推進事務局

# AUV官民PF等の経緯

## ◆ AUV の社会実装に向け、課題解決のための制度環境の整備等について検討するとともに、様々な情報共有を行うための官民の議論の場

### 【AUV戦略のとりまとめの経緯・AUV官民PFでの検討・提言】

- 令和5年4月 総合海洋政策本部参与会議「自律型無人探査機（AUV）戦略プロジェクトチーム」による中間とりまとめ
- 令和5年10月 自律型無人探査機（AUV）官民プラットフォームによる「提言書」のとりまとめ  
 ～ 令和5年5月より同プラットフォームの全体会議の他、技術部会、利用部会を開催し、検討を実施 ～
- 令和5年12月 総合海洋政策本部による「自律型無人探査機（AUV）の社会実装に向けた戦略」の策定



# 本年度の活動方針（振り返り）

## 【総論】

- ◆ AUV官民PFとAUV利用実証事業を連動させ、AUVの社会実装に向けた取組をより効果的・効率的に推進することを旨とする
- ◆ 個別の利用用途、利用方法等の深掘りなどにより、AUV等の海洋ロボティクスの導入効果などをより具体的に示す
- ◆ その検討にあたっては、一例として洋上風力発電施設の維持管理を一つの柱として位置づけつつ、他の利用用途への拡大を図っていき、AUV等の海洋ロボティクスの発展につなげていく

## 【洋上風力発電施設の維持管理】

- ◆ 洋上風力発電施設の維持管理については、将来において、AUV等の海洋ロボティクスを導入しない場合と導入する場合を比較し、その効果、収益性、実現可能性などを検証する
- ◆ その検証の状況等を踏まえつつ、標準的な運用要領、標準的な機能・性能、標準的な事業モデル等につなげることを旨とする

## 【その他利用用途】

- ◆ 洋上風力発電施設の維持管理に関する検討等を通じて、そうした利用用途で得られるデータの副次的利用の可能性、事業モデルの具体化等を踏まえ、他の利用用途への展開等の検討を進める

# 本年度の検討作業概要（イメージ）（振り返り）

## 具体的な利用効果等の提示の必要性

- ◆ 定量情報を含む、より確度の高い利用効果を示す
- ◆ 各種の利用用途において、利用方法、利用効果等を具体化していく

海洋資源開発

海洋安全保障

海洋環境保全

洋上風力発電

海洋観測・監視

水産資源

科学調査・研究

防災・減災



## 個別の利用用途での利用方法などの深掘り

- ◆ より実践的な利用ニーズ等の深掘り
- ◆ AUV等の海洋ロボティクスを導入する場合と導入しない場合との比較により、利用効果を示す
- ◆ そのため、AUV等海洋ロボティクスの作業項目、作業方法、必要なリソース、取得データ等を導出
- ◆ 利用効果、実現可能性等の検討・検証

実現すべき機体等の機能・性能、運用要領等の導出

問題点、課題、改善点等の抽出

## 課題解決に向けた方策

- ◆ 技術開発
- ◆ 共通基盤の構築
- ◆ 制度環境の整備
- ◆ 人材確保・育成 など

# 出口イメージ

## ～日本発の“海洋ロボティクス活用パッケージ”の海外展開を視野に入れたモデル構築～

- ◆ AUVなどの海洋ロボティクスを開発・販売するにとどまらず、風力発電メンテナンスなどに活用し、取得されるデータ・情報の有効活用を含め、**日本発の「海洋ロボティクス活用パッケージ」の海外展開も視野に入れつつ、収益性の高いサービス提供モデルの構築を目指す。**
- ◆ **最新の国際動向を調査したところ、洋上風力発電における海洋ロボティクスによるサービスモデルの構築に関する将来ビジョンを描いている段階**にある。欧州を中心とする、洋上風力発電施設の維持管理において、無人機等の特徴等に応じて海洋ロボティクスの活用拡大によるシステムの構築を目指す点で、類似性がある。
- ◆ **我が国の特徴・強み等に着目し、海外勢との比較優位性を見出し、国際市場への積極的な展開を視野に入れ、取組を進める。**
- ◆ その取組を進める中で、**取得データの副次的利用の深堀り、拡大等を図っていき、他の利用用途の開拓、展開を進める。**

# 今後の方向性

## 【これまでの進捗】

- ◆ AUV戦略に沿って、実際の利用用途を想定した際のAUVなどの導入効果の試算などを通じて、開発目標、事業モデル構築に必要な情報取得等に取り組み、ひとつの出口戦略を含む今後の方向性の具体化等が図られた。
- ◆ 社会実装に向けた、各論の具体化を含む、深掘りを進める段階にある。

## 【成長戦略との関係】

- ◆ 危機管理投資、成長投資による経済成長の実現に向け、成長戦略の海洋WGでは、AUV官民PFの活動の状況、これまでの成果、今後の方向性を含め、適切にインプットしていく。
- ◆ なお、成長戦略の動向等を踏まえると、同海洋WGでは、以下のような点を含め、検討が進むこととも想定される。
  - ✓ 開発目標、事業モデル、バリューチェーン等の見える化の促進
  - ✓ 利用用途の拡張性、他への波及効果、国際競争力等を考慮した、開発・事業展開等の工程について官民で共有し、動向等に応じて適時に更新
  - ✓ 需要構造等に応じた、官民を通じた戦略的な投資の促進
  - ✓ 投資上の不確実性の低減に向けた、一層の取組の推進
- ◆ 同海洋WGの状況等を含め、本AUV官民PFでの活動に反映すべきものは反映していくことが肝要である。

## 【今後の方向性】

- ◆ これまでの進捗を踏まえ、官民が協調して取り組んでいく道筋（ロードマップ）を関係者間で共有し、海洋WG等最新の動向等に応じて、高頻度で見直し等を図りながら、社会実装に向け、一層取組を加速していく取組を進めていく。